

試合運営について（船橋市野球協会少年学童部特別ルール）

2020年4月改定

* 選手の準備運動及びアップについて（グラウンド内にて）

各大会開催日の第1試合

試合が行われる面の外野部分を使用して実施する。（センターを境界線とする。）

トスバッティング 試合開始予定時間の1時間前までは認める。

（トスバッティングとは守備の選手を配置しない状態で行い
選手同士でなくても良い）

バント 試合開始予定時間の30分前までは認める。

素振り ベンチ入りまで認める。（外野部分において指導者が立ち会う）

選手へのノック 指導者のみが行える。（バットの使用を認める。）

投球練習 ベンチ前にて1組までは認める。（ベンチ入りの時間まで）

各大会開催日の第2試合目以降

学童部管理下の場所において、選手及び指導者がバットを使用することを禁じる。

（学童部より貸与された面において、試合前のチームが練習する場合も同様とする）

前の試合終了前までは、指定された場所にて実施する。

（特に高瀬大人面の外野部分においてのアップについては事業部の指示に従う）

選手のバットを使う練習は認めない。

試合前は、試合面の外野部分を使用して準備体操及びキャッチボールのみを認める。

試合前の選手へのノックは、指導者のみが行える。（外野でのみバットの使用を認める）

素振りは、ベンチ入りまで認める。（外野部分において指導者が立ち会う）

* 指導者について

グラウンド内に入れるコーチは、ベンチ登録コーチだけである。

（30・29・28番の監督・コーチで、代表・スコアラーは入れない）

但し 第1試合のみ試合開始予定の30分前までは、補助コーチとして無番のコーチのグラウンド入りを認める。（ユニフォーム姿）

ベンチ入りまでは、ベンチ登録コーチの練習補助を認める。

（ベンチ前での投球練習の捕球を認める。）

* その他 留意点

シートノック時のノッカーの立ち位置をインフィールド内に限定しない。

シートノック終了後、ホーム付近の整備、ライン引きを実施する。

（但し全日本学童千葉大会・関東学童（春・秋）千葉、少年野球連盟等の主催試合は大会毎に確認）

ネクストバッタースクール内ではバットを地面につけて持ち、立った姿勢を推奨する。

※ファールボール等への対応について安全を期すため（座っていても可）

ネクストバッタースクール内で素振りを行ってはいけない。

安全を考慮しグローブの紐の結びを徹底する。また、スパイクの紐及び用具の留め具も確認する。

ランナーコーチャーの選手は、試合進行が遅れないように円陣には参加せず位置につく。

控え捕手の準備をおこなう。（用具等が不足している場合は、立って捕球体勢を取らせる）

控え捕手が出ることなく、正捕手の用具装着を待った場合は準備投球を省略することがある。

※試合担当の4人の審判員が試合進行を遅らせてないか判断する

試合中に投球練習を行う際の捕手は必ず用具を完全装着する。（捕手の位置は外野側にして行う）

試合中、守備側の捕手が用具を装着する場合、ネクストバッタースクール付近にて行う。

捕手の用具は試合進行が遅れないようにコーチ等が装着の補助を行う。

捕手の野手へのサインを行う場合は、キャッチャーボックス内のみ認める。

投手と内野手とのサイン交換がある場合、投手が明らかに応諾の姿勢をとった場合に

審判員がボーク（遅延行為）を宣告することがある。

※県少年野球連盟審判部にて確認済、但し、運用については試合担当審判員に委ねる。

メンバー確認はシートノック前に行う。

選手用具について、バット・ヘルメットと同様に捕手用マスクにもJSBB・SGマーク入りを使用する。

イニング間に指示するためにベンチから出られるのは監督・代理監督のみとする。

学童部の管理下の場所において、すべての選手がバットを使用することを禁止する。但し、素振りに関しては上記の規定内においては認める。

各チームの指導者においては、試合前の練習の際、選手たちの安全確保のため、必ず選手の近くに付き添い、周囲への配慮を行う。（選手任せの練習については、注意及び中止を勧告する）

攻守交替時、守備側の控え選手の並ぶ位置はコーチーズボックスの後ろのラインを目安とする。
※試合会場により、変更することがある。

メンバー表の作成において、登録選手のフルネームでの記入及びふりがなの記入を励行する。

* 上記においての「指導者」とは、ベンチ登録コーチ（30・29・28番）を指します。

* 当日の運営において、事業部と審判部の判断で上記の内容を変更することがある。